

# 「健診(検診)」受け忘れていませんか？



健診(検診)の受け忘れはありませんか？実施期間は、「令和8年3月末まで(一部除く)」です。受診を希望する人は医療機関へ直接予約をお願いします。※生活保護世帯の人は自己負担金無料です。

## ●特定健診

対象：国民健康保険加入者・後期高齢者医療保険加入者 内容：身体測定・検尿・血液検査など  
自己負担金：500円 医療機関：日野病院(72-0351) 期間：令和8年3月末まで

## ●がん検診・その他

| 検診名            | 対象者                   | 自己負担金                | 医療機関                            | 実施期間        |
|----------------|-----------------------|----------------------|---------------------------------|-------------|
| 胃がん検診<br>(内視鏡) | 40歳以上                 | 1,200円               | 日野病院(72-0351)<br>江尾診療所(75-2055) | 令和8年3月末まで   |
| 肝炎ウイルス検査       | 40歳以上<br>(初受診者)       | 400円                 | 日野病院                            |             |
| 骨粗しょう症検診       | 40歳以上の女性              | 400円                 | 日野病院                            |             |
| 子宮がん検診         | 20歳以上の女性              | 700円<br>(体部同時1,200円) | 日野・西伯・博愛ほか                      | 令和8年1月末まで   |
| 乳がん検診          | 40歳以上の女性<br>(昨年度未受診者) | 600円                 | 西伯・博愛・米子医療<br>センターほか            |             |
| 肺がん検診          | 40歳以上                 | 500円                 | 日南・潮医院ほか                        | 令和8年1月15日まで |
| 大腸がん検診         | 40歳以上                 | 500円                 | 潮医院・法勝寺内科ク<br>リニックほか            |             |

※医療機関は町ホームページにて確認できます。

「ホーム>各課案内>健康福祉課>健康>各種健康診断>令和7年度特定健診・がん検診」の順に進んでください。個別健診の欄に医療機関一覧が掲載されているのでご確認ください。

### 【受診時の持ち物】

- ①日野町受診券 ②特定健診(健康診査)受診券 ※受診される場合のみ  
③マイナ保険証等 ④自己負担金

※日野町受診券を紛失した人は再発行しますので、町健康福祉センターまでご連絡ください。

## ●歯周病検診

対象：今年度、20～70歳の5歳刻み年齢になる人

※対象者には7月上旬に案内文、歯科医院一覧を送付しています。

検診希望者は問診票など受診に必要な書類を送付しますので、町健康福祉センターまで必ずご連絡ください。

| 歯科医院      | 実施期間       | 自己負担金                                     |
|-----------|------------|---|
| おか歯科医院    | 令和8年3月末まで  | 歯周病検診 500円<br>口腔がん検診 500円(口腔がん検診は40歳以上のみ) |
| そのほかの歯科医院 | 令和7年12月末まで | 歯周病検診 500円                                |

【問合せ先】町健康福祉センター(電話 72-1852)

# 長引くせき—— 今年は「百日咳」が増えています

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



皆さんは百日咳という病名を聞いたことがありますか。ほとんどの人は知っているけど見たことないと言われるのではないのでしょうか。今年は日本全国鳥取県も含めて百日咳が増加しています。全国的には全数届け出を開始した2018年からでは最も多く、鳥取県でも前年数をすでに上回っています。

そこで、百日咳について最近の情報を含めて勉強しましょう。

## 増加している「百日咳」 どのような病気が

百日咳は名前からして「咳がひどそう」と想像が付きまします。その通り、江戸時代から百日咳の名前は知られており、百日も咳が続く病気とされています。百日咳の医学名 *Pertussis* もラテン語で激しい咳という意味です。

百日咳は百日咳菌が飛沫感染あるいは接触感染で体内に入って7〜10日ぐらいで発症します。発症する1、2日前から感染力があります。

初めは鼻水や軽い咳など風邪そっくりの症状から始まるため、本人も周囲も気づきにくいのですが、この時期からすでに人にうつしやすい点が厄介です。感染力はインフルエンザの数倍、新型コロナウイルスよりも強く、はしかと同等で最強です。

初期症状は2週間程度続いた後、痙咳期となり、コンコンコン、ヒューといった特徴的な咳が6週間以上持続します。発熱はあつても軽く、出ないことも珍しくありません。

治療は抗生物質（マクロライド系薬）を5〜7日間内服するのが基本ですが、最近では耐性菌も増えているので医師に十分診察をしてもらってください。また、適切な抗菌薬治療を開始

して5日が経過すると、人にうつす力は大きく下がる」とされています。

治療しない場合は、咳が出始めてから3週間ほどは感染性が持続します。学校・職場・医療現場でも、この目安が復帰可否の判断に用いられます。特にワクチン未接種の乳児に感染させないように気をつける必要があります。

## 百日咳にかからないための 必要な知識・予防とは

予防の中心はワクチンです。乳幼児には5種混合ワクチンの定期接種（生後2か月から合計4回接種）が行われており、予防効果は90%、重症化もほとんどありません。しかし、5年程

度で効果は顕著に減少するため、小学校高学年での追加接種が推奨されています。

一方、成人、高齢者に対するワクチンの推奨はありません。ただし、米国では10年ごとのワクチン接種が推奨されています。

喘息、慢性閉塞性肺疾患、肥満は百日咳重症化のリスク因子です。このような持病のある方は日頃から、感染予防に注意してください。日常的には飛沫感染対策としてマスク、手指消毒、手洗いが有効です。

今年も全国でも、そして鳥取県でも百日咳が増えています。正しい知識と、いつもの予防を怠らないに行い、いちばん弱い立場の赤ちゃんを守りましょう。

